

写真

(第三種郵便物承認)

# 積雪ハンディなんの

利根商高

## 最新の理論で トレーニング



運動部員の背骨の形状を測定する学生

関東学園大と初の連携事業

積雪などの影響で部活動が制限される冬季に、効率のいいトレーニングを取り入れようと、みなかみ町の利根商業高で26日、関東学園大との連携事業が初めて行われ、同高の運動部員が身体能力の測定を受けた。

運動部の1、2年生約140人が参加。同大経済学部経営学科スポーツマネジメントコースの天野勝弘准教授や学生らが測定機器を持ち込み、生徒の姿勢や動き、体力などを計

測した。

集中力を高めたり、けがを防ぐために重要な「姿勢」を特に重視して測定。特殊な測定機器で背骨の形状や足裏にかかる圧力の分布を記録したり、デジタルカメラで立ち姿を撮影した。今後、個人や部活ごとに測定結果を分析し、トレーニングに役立ててもらう。

事業は3月までの全3回。第2回は最新理論に基づいた具体的なトレーニング方法を学び、最終回は部員に測定結果を説明する。

県北部の同高は冬に雪でグラウンドが使えなくなる場合もあり、限られた練習環境で効率良くトレーニングする必要がある。進路指導部の田崎潤教諭は「普段の体力テストで

は分からない姿勢や動きで良い結果につなげたきを測定し、春の大会い」と期待した。